

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	深谷 和広
最終学歴	学 位	専門分野
立命館大学大学院経営学研究科企業経営専攻 博士後期課程満期退学	経済学修士	会計学

I 教育活動

○目標・計画

(目標) 建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に基づいて、経営に必要な知識と技術を修得させ、地域で事業活動を行う企業や組織においてリーダーシップを発揮して活躍できる人材を育成することを目標としている。特に、会計学・財務諸表論等を学ぶことを通じて財務会計の専門知識を身に付けた人材を育成する。また教職員と学生が取り組む「オンリーワンを、一人に、ひとつ」のフレーズを念頭に人材育成に邁進する。

(計画) 校訓「真面目」を意識し、学習への真面目な取り組みの基本姿勢を伝え、内容に興味のわく分かりやすい授業実践を積極的に進める。授業内容は授業評価の結果も踏まえて最新の話題にも気を配って。内容改善を進める。また演習では、学生の主体的な学びを積極的に設定し、愛情と情熱をもって校訓「真面目」を体現する社会人育成の教育を実践する。

○担当科目（前期・後期）

（前期） 簿記会計Ⅰ、会計学、原価計算論、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期） 簿記会計Ⅱ、財務諸表論、財務管理論、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

2020 年 4 月コロナ禍以来 3 年が経過し、昨年度までの授業内容を見直し、新たな日常の中での対面を前提とした授業に取り組んだ。講義科目では、対面授業のメリットを生かすべく魅力的な授業となるように努めた。また対面する学生の理解度を意識し、ネット資料と共に板書を積極的に活用した。演習科目では、コロナ禍の制約のもとで対面コミュニケーションを意識し演習運営に取り組んだ。また演習活動においてチームワークを積極的に活用した。

○作成した教科書・教材

「簿記会計Ⅰ」「簿記会計Ⅱ」「原価計算論」「会計学」「財務管理論」「財務諸表論」の講義科目では、テキストを活用するとともに独自の学習資料を作成し、学生の理解度を踏まえ、学生にとって魅力ある授業運営にとり組んだ。フィードバック資料としてオンデマンド資料を活用した。またチームスの課題機能を用いて事前事後の自主学習できる授業運営に努めた。

○自己評価

「簿記会計Ⅰ」「簿記会計Ⅱ」「会計学」「原価計算論」「財務諸表論」の講義科目では、独自資料を活用して学生自ら学習できる授業運営にとり組んだ。コロナ禍の制約があるものの積極的に対面授業のメリットを生かして学習目標を達成できるよう学習環境の整備に努めた。演習活動ではコミュニケ

ーションを重視するゼミ運営を実践することができた。ゼミ運営で個別対応に配慮し学生の授業満足度を高めることができた。コロナ禍の授業運営上の制約はあったが、自ら学ぶ学習姿勢を育てるという自身の教育目標を達成することができた。

II 研究活動

○研究課題

○目標・計画

○2016年4月から2024年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

（学術論文）

- ・ 深谷和広：「IFRS18「財務諸表における表示及び開示」へのイントロダクションー基本財務諸表プロジェクトの帰結ー」、同志社商学第75巻第5号、2024年3月14日、107頁-122頁
- ・ 深谷和広：「IASB基本財務諸表プロジェクトの予備的検討ーEBITと経営者業績指標の導入の方向性ー」、東邦学誌第47巻第1号、2018年6月10日、145頁-157頁
- ・ 深谷和広：「IASB討議資料『開示原則』の検討」、東邦学誌第46巻第2号、2017年12月10日、203頁-217頁
- ・ 深谷和広：「『IFRS実務記述書：重要性の適用』の検討ー重要性のプロセスを中心にー」、東邦学誌第46巻第1号、2017年6月10日、141頁-153頁
- ・ 深谷和広：IASB『実務記述書：重要性の適用』の検討、『東邦学誌』第44巻第1号、2016年6月10日、91頁-103頁

（学会発表）

該当なし

（特許）

該当なし

（その他）

該当なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

科学研究費補助金への申請は行わなかった。

○所属学会

日本会計研究学会、税務会計研究学会、国際会計研究学会、会計理論研究学会

○自己評価

2023年度も開示問題への取り組みに関する基礎的研究活動を進めてきた。国際会計基準審議会（IASB）基本財務諸表プロジェクトの進行状況を分析する活動を実施してきた。今年度の成果の一部として同志社商学への寄稿を行うことができた。今後も企業会計制度における表示と開示の問題を中心に位置づけることを積極的に進めて行きたい。実務への影響を含めて新たな会計制度の変革について研究を深めて積極的に発信する予定である。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

建学の精神を意識し、真面目に情熱をもって学務分掌の職責をはたし、大学運営に貢献する。また、「オンリーワンを、一人に、ひとつ」のフレーズを大学運営面での具体化に貢献する。

(計画)

経営学部長補佐・地域ビジネス学科長として大学・学部業務を遂行することに邁進する。また委員会の構成員として業務を遂行し、それぞれの業務遂行に邁進して大学の発展に寄与する。

○学内委員等

自己点検評価実施部会

○自己評価

学部長補佐・学科長として経営学部長を補佐し、学部執行部の円滑な運営と学部教育の発展に資する活動に邁進してきた。また大学教育全体の発展に資する活動を積極的に行ってきた。また硬式野球部長として大学を代表する硬式野球部となるべく部活動の運営に尽力し、本学学生生活動全体の支援となるべく活動を推進した。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

2023 年度愛知大学野球連盟の企画・運営に理事として関与し、積極的に連盟活動に貢献する。

(計画)

2023 年度事業計画に基づき、春秋リーグ戦等の事業を実施し、魅力ある大学野球を実現する。

○学会活動等

特になし

○地域連携・社会貢献等

特になし

○自己評価

2023 年度愛知大学野球連盟理事として年間業務を遂行し、連盟活動の推進という大目的を達成することができた。大学硬式野球部として日々の練習に邁進し、強化指定クラブとして恥ずかしくない活動を支援することができた。強化指定クラブとしての基盤を固め、1 部リーグ校を代表として活躍する土台を築くことができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

「三つの言葉」（建学の精神／校訓／教職員の心構え）具現化が学園構成員に付託された使命である。本学ブランディングとして「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のコンセプトフレーズに定めました。「三つの言葉」と「コンセプトフレーズ」を心に置きながら日々の業務活動を通じて自己研鑽に邁進しました。学生の成長を支援する教育者として日々の教育・研究活動等を通じて自己の能力を発揮しました。1 年間の区切りを意識し年度当初の改善点を意識して教育実践を遂行した。

VI 総括

大学教員として、教育・研究活動を中心として、2023 年度も教育・学生指導の両面において積極的に活動した。1 年を振り返ると不十分な点もあったが大学全体の発展に大いに貢献し、大学発展の基礎固めを意識して実践することができた。本年度も大学硬式野球部部長として強化指定クラブ運営・

推進の業務を担当した。1 部昇格という当面の目標を達成し、1 部校として愛知大学野球連盟理事の役割を連盟活動において果たすことができた。また本年度も学部長補佐兼学科長として学部執行部の運営と学部教育活動の推進の面で大学の教育活動に大いに貢献することができた。

以 上